

# カタルーニャ・クロッシング

カタルーニャと日本。人や企業、そして芸術、生活がクロスする現場を探ります。

## 第9回 ハビエル・マリスカル 氏 (アーティスト) 「日本の筆と墨で線を描くこと」



にとってはどうでしたか。

**Mariscal**

自分は仕事で行って日本との接点を持ちましたが、18歳の娘や9歳の孫たちはマンガ、アニメに夢中です。現代の日本の本やマンガはスペインでも翻訳されているし、マンガ専門の書店もあります。私の世代の友人たちは、伝統的なものとモダンなものがミクスチャーされたところに惹かれるようです。「崖の上のポニョ」をはじめとした…名前が出てこないんですが(スタジオジブリのこと)彼らのアニメーションは、どれも素晴らしいです。最高傑作です。私の知人はマンガから絵を学んでいますし、日本への憧れが強いですね。そして個人的には食べ物ですね。日本のことを想うとき、薄暗い落ち着いた照明の中でサーブされたすばらしい日本料理をいつも思い出します。バルセロナでの日本食とは全く違います。日本に行くことの楽しみのひとつは、まさしく日本料理です。

**AMICS** マリスカルさんの活躍領域は絵画、グラフィックデザイン、家具、映画と多岐に渡りますね。こういったマルチな活動は「画家であって、画家だけではない」というバルセロナのアーティストの系譜にも思えます。

**Mariscal** 自分のことは気恥ずかしいですね。どう思っていたいでもいいんですが、私の職業は迷わず「絵描き、線を描く人:dibujante」と答えます。先ほどの日本での体験ですが、初めて行った時、自分が一番感銘を受けた出会いは墨と筆です。真っ黒く美しい墨の色、それを線に変える日本の毛筆。この発見は生涯決して忘れません。筆を握って墨で真っ黒な線を描く。そのスタイルはびったりきます。だから、私は自分を「線で絵を描く人」だと思っています。

**AMICS** 作品にはコビー(バルセロナ五輪のマスコット)をはじめ、いろいろなキャラクターが出てきますが、彼らの均一ではなくて味わい深い黒の線など、墨の影響があるのでしょうか。

**Mariscal** はい、ありますね。キャラクターは黒の線で描き、そのままの時もあれば、それをベースに色を乗せて行くこともあります。コビーもそうでした。日本の筆はキャラクターに生き生きとした感じを与えてくれるんです。

**AMICS** 多くの日本人のマリスカルさんとの接点はコビーだったと思います。彼は元気になっていますか。今一番のってるキャラクターはどれでしょうか。

今回は世界的なグラフィックデザイナーとして知られる、バルセロナ在住のハビエル・マリスカルさんです。日本との出会い、それが作品に及ぼしたものがあつたのか、率直に話を伺うことができました。

**AMICS** 今日はありがとうございます。休暇中とお聞きしましたが、今どちらにいらっしゃいますか。

**Mariscal** イベサ島にきています。ちょっとWiFiの接続が不調かもしれません。明日はフォルメンテラ島へ移動する予定です。

**AMICS** 日本へは何度もいらっしゃるとのことですが、最初のきっかけはなんだったのでしょうか?どんな印象を抱きましたか。

**Mariscal** 1981年か82年でした。ファッション誌ヴォーグ・ミラノの女性編集者に誘われたんです。とても親しい友人でして、彼女の取材に旅行のつもりで同行しました。その頃ちょうど雑誌に「伝統的な日本、モダンな日本」という特集があつて、興味は持っていたんです。とはいももの実際には詳しい情報も、新しい情報も乏しいまま、スケッチブック片手にやってきました。

**AMICS** 刺激やインスピレーションはありましたか。

**Mariscal** 日本についての途端に伝統的なものにも、モダンなものにもあつという間に取り囲まれてしまった感じがしました。どちらも全てが新鮮でした。着いた晩は飛び込んでくる画像や情報のボリュームに目が痛くなってしまふほどで、夜も眠れなくなっていました。とても魅了されました。誘ってくれたイタリアの友人もおんなじだったようです。東京のアクティビティ、ダイナミックな活動、それにタクシーに乗れば自動で閉まるドア!

**AMICS** フランスのアル・ヌーボーや、カタルーニャのモデルニスモの19c後半のアーティストはジャポニズムという形で日本からの刺激を吸収していましたが、現代のアーティスト、マリスカルさん

**Mariscal** コビーもずっと描いていますが、今、自分にとっての主人公になるのはガリスです。彼はいろんな作品の案内役でもあります。「チコ&リコ」と一緒に作ったフェルナンド・トゥルエバ監督とは、ガリスを主人公にしたアニメ映画を準備しています。映画のプロジェクトはもうひとつ、70年代、80年代のブラジル音楽家をテーマにした企画があります。これは女の子が主人公です。2、3年後になるでしょうね。そこからも新しいキャラクターがいくつも生まれてくると思いますよ。

**AMICS** BARCELONAのポスター(1979年)は代表作のひとつですよね。マリスカルさんの好きなバルセロナの場所、オスメを教えてください。

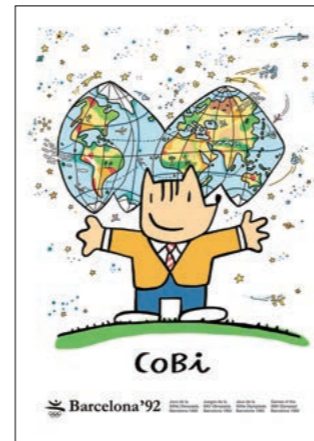
**Mariscal** モンジュイックの丘に登ってバルセロナ全体を見渡すのが好きですね。あとは海辺の散歩です。バルセロナはこじんまりした街ですから、歩けるし、自転車に乗って移動するのもいいですよ。あのポスターは多くの友人クリエイターたちと、バルセロナのポスターコレクションを作ろうということでも生まれました。自分の狙いはまず、重要な構成要素である文字をどう扱うかでした。ポスターなので縦位置にするために、BAR-CEL-ONAと3つに分けたところ、それぞれがこの街の魅力を語る大事な意味を持っていることに気がつきました。BARは文字通り「バル」CELはカタルーニャ語の「空」、ONAは「波」です。バルセロナの3要素です。こんなようにね。(ここでBARCELONAの解説図を描いてくれました)それがとてもよこんでもらえましたね。

**AMICS** バレンシア生まれですね。そして若い頃からバルセロナにずっといらっしゃる。ポスターの三つの要素の中でも海、特に地中海はマリスカルワールドに大きな意味をもっているのでしょうか。

**Mariscal** 大家族と一緒に育ったのはバレンシアです。19歳でバルセロナにきたことで、家族の束縛から逃れ(苦笑)自分を追求できたのはよかったです。そこでも地中海は一緒ですよ。生まれてからずっとそばにいる身近なもの。地中海が好きだし、描き続けています。こうして、パッケージでやってきた島でも海辺の岩や樹木を描いています。地中海、そして海の存在は大きいです。

**AMICS** コロナウイルス対策下の活動は影響を受けましたか?コロナ以降の活動について今考えられていることはありますか。

**Mariscal** 映画のプロジェクト等は、もともと皆で集まってミーティングして進めることが多かったのですが、私自身の仕事は家ですることが主体です。コロナになってもビデオ会議もできるし、必要な資料は届くので仕事上は問題ありません。というより、おかげで不必要な支出を抑えることもできています。自分たちが住む地球という惑星は、みんながいっしょにコーディネートしていかなければ維持できないということが、よくわかりました。私たちは、地球という家に一緒に住んでたんです。そしてそれはとても「小さな家」だっ

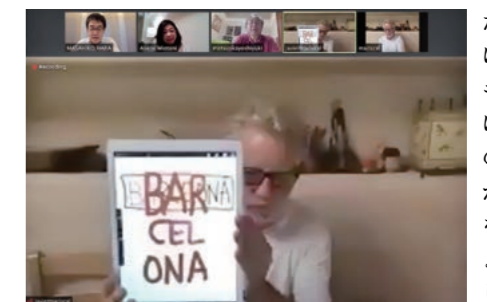
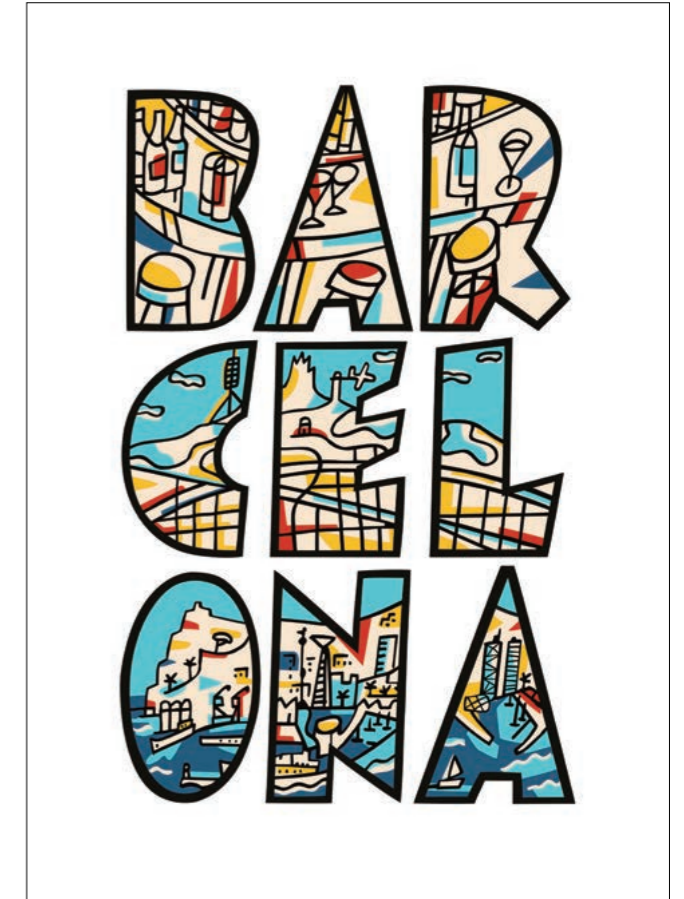


バルセロナ五輪マスコット「コビー」



キャラクター、ガリスの「モンジュイックの丘でのピクニック」

一世を風靡したマリスカルデザインのバルセロナのポスター



たんです。変わらないければならないし、キープしていかなければいけないものもある。子供たちがこの先もこの家を維持していけるようにしなくてはなりません。

**AMICS** 以前でしたら、バルセロナに行かなければいけないと考えがちだったインタビューが、こうしてオンラインで東京からできました。ありがとうございます。

**Mariscal** 近いうちに、また日本に行ける日を待っています。

### <AMICSの眼>

マリスカルさんのキャラクターの線が、何を使って描かれているのか?友人との会話に上がったことがあります。彼にとってもパソコンやiPadを制作ツールとして使いこなすのは今では不可欠なようですが「日本の筆と墨で描く黒の線」の話には思わず膝を打ちました。やはりカタルーニャと日本、この間には学び吸収し合う、生き生きとしたラインがあるようです。

(取材/文 原正彦)

### ハビエル・マリスカル Javier Mariscal

1950年バレンシア生まれ、1970年よりバルセロナ在住。「デザインのバルセロナ」を代表する現代アーティスト。世界的に活躍し、非凡な才能が多方面な作品に反映されている。日本でのプロジェクトも多数。  
www.mariscal.com